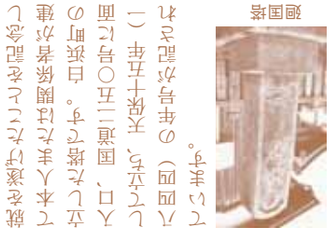
文化財をたずねて

妻鹿・御旅山めぐり

御旅山の古墳群

おたびやま

市川の河口近くの東岸に位置する標高一四一mの山塊は、その南部に松原八幡神社の御旅所がある。御旅山と呼ばれています。御旅山の山麓には、二十基以上が分布していますが、古墳が確認されているのは一四基ほど、これまで一四基の程度の円墳と考えられています。

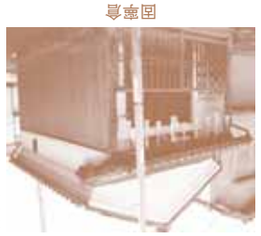


オコゼ絵馬

荒神社の絵馬

こうじんじゃ

国府山南西麓の荒神社の拝殿天井には百以上のオコゼの絵馬が奉納されています。姫路市指定文化財。

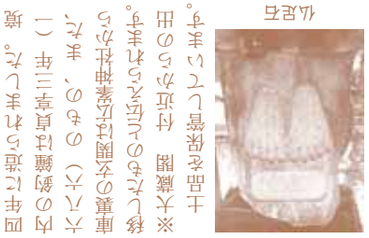


固寧倉

固寧倉

こねいそう

固寧倉の名前は「民は堆れ邦寧し」という書経の語からの名付けといいます。姫路市指定文化財。



仏足石

仏足石

いそのかみじんじゃ

イソノカミ神社の初期には、仏像が造られなかったので、釈迦の足裏の形を石に刻んだ仏足石が当寺の先住職がインドの四年に巡礼を記念して昭和六年の釣鐘は貞享三年（一六八六）のもの。また、庫裏の玄関は伏見神社から移したものと伝えられます。※大蔵階　付近からの出土品を保管しています。

表紙説明

市役所より見た国府山城。その後方は御旅山

交通案内

山陽電車・妻鹿駅下車（普通・S特急停車）

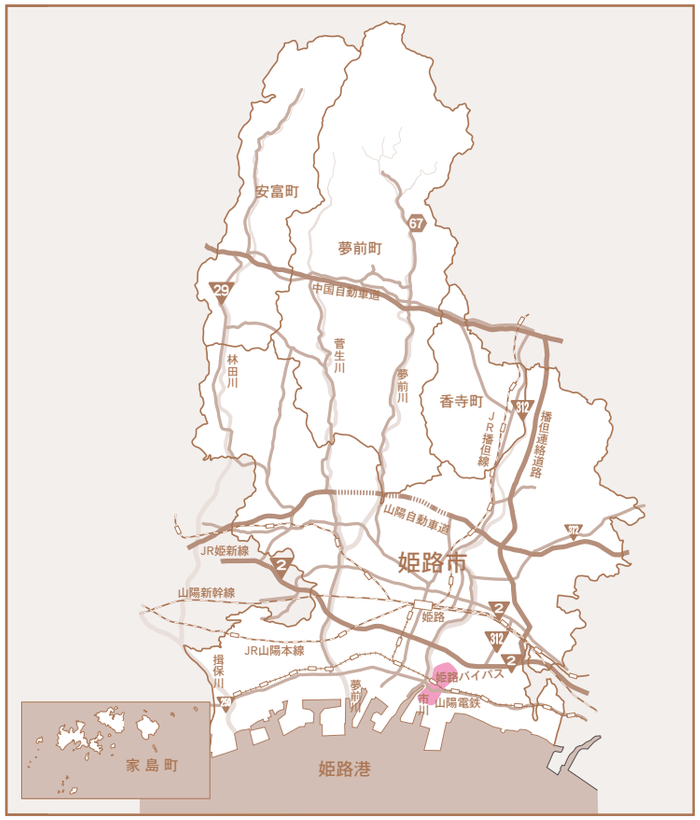
コース案内

●山電・妻鹿駅―（三三〇m）―教念寺―（一一〇m）―固寧倉―（四五〇m）―黒田職隆廟所―（約八〇〇m）―御旅所―（九〇〇m）―5号墳―（約一・一km）―城址の碑・荒神社―（五五〇m）―山電・妻鹿駅

●廻国塔―国道二五〇号を東へ進む

●松原海山墓地石棺仏―廻国塔より南へ約二〇〇m

●全行程は四・三kmです。



昭和59年3月31日発行
平成26年6月　改訂
（姫路市教育委員会　姫路市文化財保護協会　発行）

松原墓地の石棺仏

墓地の北奥の所に、墓石と並んで立っています。家型石棺の蓋石と舟形光背を彫りくぼむ、その中にそのて方には二体の座像を掘り、蓮華座上に地蔵立像を掘り刻んでいます。

石棺仏

廻国塔

かいこくとう

廻国塔は大乗妙典と呼ばれる法華経を、全国八六カ国の霊場に納める目的で、六六部作成し、各国を廻って奉納した諸願成就を願げたことを記念して本人は塔です。白浜町の立ロ、国道二五〇号に面して立ち、天保十五年（一八四四）の年号が記されています。

廻国塔

国府山城

こうのやまじょう

国府山城

黒田職隆廟所

くろだもとたかびょうしょ

地元では「チクゼンさま」と呼ばれています。天明三年（一七八三）、姫路城下に光明寺の僧八善が国府山城址の塚と呼ばれる墓の前に、妻鹿村に建てた阿弥陀仏の碑があります。天正八年（一五八〇）黒田官兵衛が播磨に入国した際、この地を秀吉に譲ってこの城に移り住んだと言われています。『黒田家譜』によれば、「城の北、国府山の麓に『飾磨郡誌』には、長さ九五間（一七二・七m）、横十一間（二〇・〇m）、「城の北」、「馬繋け」、「局屋敷」、「城の内」、「一の段」、「二の段」、「三の段」、「四の段」、「五の段」、「六の段」、「七の段」、「八の段」、「九五間（一七二・七m）」と記されています。『飾磨郡誌』には、長さ九五間（二三三〜二三四m）と確認できません。元弘年間（一三三二）に『太平記』で有名な楠正成の孫三郎長宗が居城したとも言われます。天正八年（一五八〇）黒田官兵衛が姫路城を秀吉に譲ってこの城に移り住んだと言われています。『黒田家譜』には記されていません。

御旅山9号墳

御旅山9号墳

十二号墳は、横穴式石室を主体とし、奥壁の一部に思われる石材が残っています。十三号墳は、円墳の一号墳も同じく飾磨高校にあります。十四号墳は、鉄剣、鉄矛など発見されて以外に、御旅所前や飾磨高校にあります。

荒神社

こうじんじゃ

荒神社は、横穴式石室の一号墳、八号墳は小型の円墳。九号墳は、細は不明です。詳細は不明で、飾磨高等学校の敷地に現存しています。一〇号、十一号墳も同じく飾磨高校にあります。現存しません。

一号墳、宮山経塚出土品

宮山経塚

一号墳は、須恵器、円筒埴輪が出土し、六世紀前半。三号墳は、割竹形木棺を持つ径八mの円墳。波文帯三角縁三神三獣鏡、鉄剣、銅鏃、鉄鏃、ガラス玉などが出土、姫路市指定重要文化財です。

表紙説明

ひょうしせつめい

市役所より見た国府山城。その後方は御旅山

教念寺

きょうねんじ

イソノカミ神社の初期には、仏像が造られなかったので、釈迦の足裏の形を石に刻んだ仏足石が当寺の先住職がインドの四年に巡礼を記念して昭和六年の釣鐘は貞享三年（一六八六）のもの。また、庫裏の玄関は伏見神社から移したものと伝えられます。※大蔵階　付近からの出土品を保管しています。

固寧倉

こねいそう

固寧倉の名前は「民は堆れ邦寧し」という書経の語からの名付けといいます。姫路市指定文化財。

仏足石

いそのかみじんじゃ

イソノカミ神社の初期には、仏像が造られなかったので、釈迦の足裏の形を石に刻んだ仏足石が当寺の先住職がインドの四年に巡礼を記念して昭和六年の釣鐘は貞享三年（一六八六）のもの。また、庫裏の玄関は伏見神社から移したものと伝えられます。※大蔵階　付近からの出土品を保管しています。

黒田職隆廟所

くろだもとたかびょうしょ

地元では「チクゼンさま」と呼ばれています。天明三年（一七八三）、姫路城下に光明寺の僧八善が国府山城址の塚と呼ばれる墓の前に、妻鹿村に建てた阿弥陀仏の碑があります。天正八年（一五八〇）黒田官兵衛が播磨に入国した際、この地を秀吉に譲ってこの城に移り住んだと言われています。『黒田家譜』には記されていません。

荒神社

こうじんじゃ

荒神社は、横穴式石室の一号墳、八号墳は小型の円墳。九号墳は、細は不明です。詳細は不明で、飾磨高等学校の敷地に現存しています。一〇号、十一号墳も同じく飾磨高校にあります。現存しません。

御旅山9号墳

十二号墳は、横穴式石室を主体とし、奥壁の一部に思われる石材が残っています。十三号墳は、円墳の一号墳も同じく飾磨高校にあります。十四号墳は、鉄剣、鉄矛など発見されて以外に、御旅所前や飾磨高校にあります。

宮山経塚

一号墳は、須恵器、円筒埴輪が出土し、六世紀前半。三号墳は、割竹形木棺を持つ径八mの円墳。波文帯三角縁三神三獣鏡、鉄剣、銅鏃、鉄鏃、ガラス玉などが出土、姫路市指定重要文化財です。

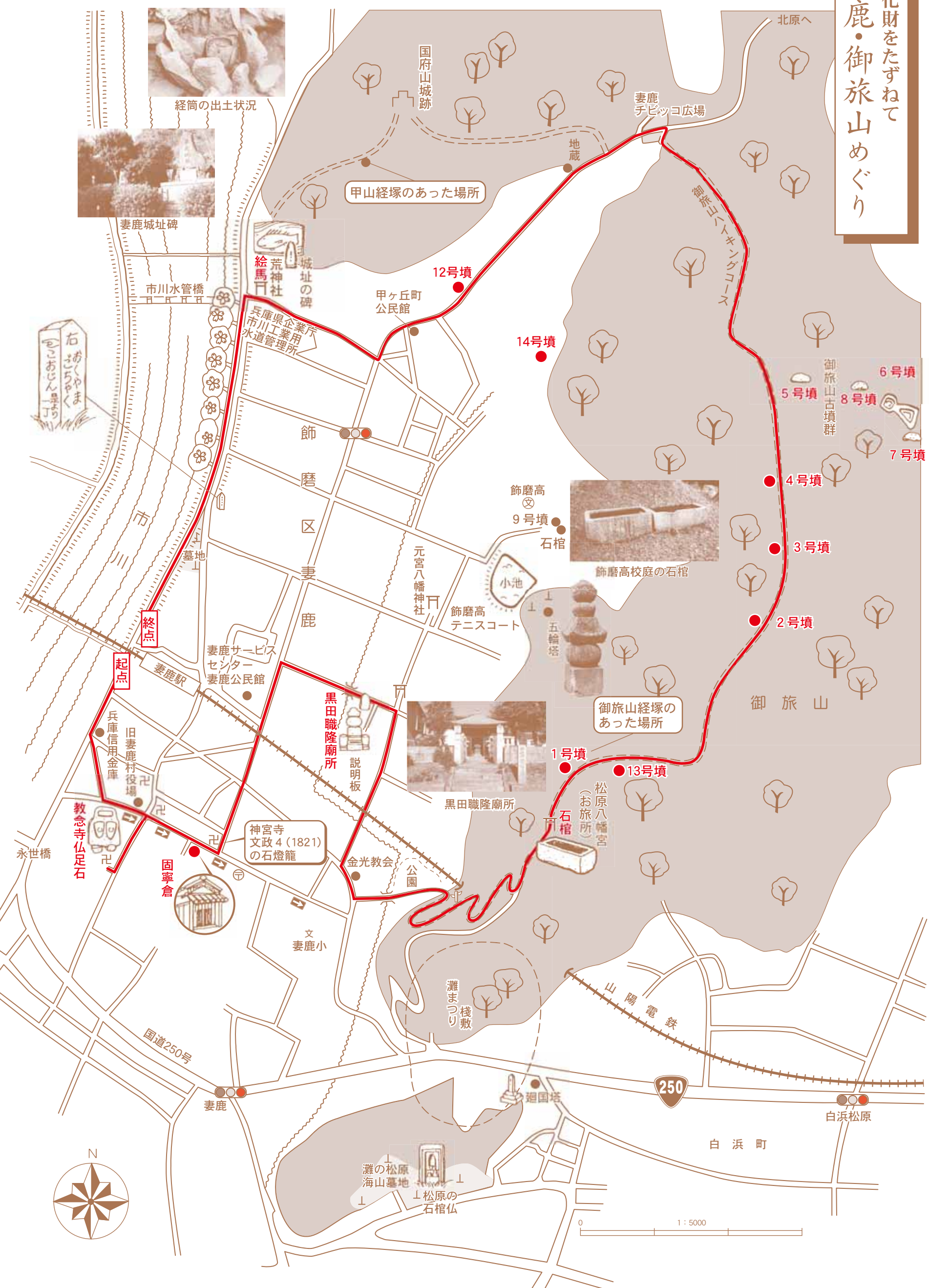
御旅山

おたびやま

市川の河口近くの東岸に位置する標高一四一mの山塊は、その南部に松原八幡神社の御旅所がある。御旅山と呼ばれています。御旅山の山麓には、二十基以上が分布していますが、古墳が確認されているのは一四基ほど、これまで一四基の程度の円墳と考えられています。一号墳は、直径一〇m

荒神社

こうじんじゃ

国府山南西麓の荒神社の拝殿天井には百以上のオコゼの絵馬が奉納されています。オコゼは、はしかの平癒、せんそく、はしかの平癒はカラ神火のほかにせきり。妻鹿の荒神はカラ神火のほかにせきり。妻鹿の荒神はカラ神火のほかにせきり。妻鹿の荒神

文化財をたずねて 妻鹿・御旅山めぐり